



げんきな子 がんばる子 やさしい子

園だより

9月号

北区立さくらだこども園
園長 西澤 尚子

大好き！があるから、自立する

今年の夏は猛暑日が続き、なかなか「自然に親しもう！」とは思えない日々だったのではないのでしょうか。それでも、今年はようやく遠出ができて、親戚に会ったり、心地よい自然に触れることを楽しんだりできた人もいたようです。

さくらだこども園の子どもたちからも、おじいちゃん・おばあちゃんに会ったり、海に入ったりした話を聞きました。ご家族で楽しい時間を過ごしたのが伝わる子どもたちの表情でした。その一方で、休み明けの朝の表情が晴れない子どももいました。家庭での時間が楽しいほど、家族と離れて過ごすこども園での時間は、幼児にとって心配なのだと思います。

幼児にとっては、毎日が新しいこととの出会いです。同じ保育者や友達との関係でも、自分の思いが受け止められるときも、受け入れられないときもあり、いつも同じではありません。また、自分の好きな遊びを繰り返しているように見えても、全く同じ状況になることはないのです。幼児にとっては、初めての状況に向き合っているように感じるものがたくさんあると思います。こども園での生活では、保育者が見守り気持ちや行動を支えますが、家庭の中で過ごす親密さ、安心感に比べると、幼児なりに自分で考えて行動しなくてはならない場面が多くなり、心配な気持ちも生じます。それでも、大好きな大人に支えられて過ごす内に、自分で考えて行動することに少しずつ慣れていくのだと思います。心配を、頑固になったり、泣いたり、怒ったりして表す幼児ですが、表したことを受け止められると、気持ちも落ち着き、受け止められた安心感からまた新しいことに向かっていけます。その繰り返しが、自立への道だと思います。子どもたちの自立を助け、支えるのが大人の役割だと考えますが、その道は幼児期と言わず、生まれたときから始まっています。

さくらだこども園は夏も毎日、子どもたちが生活しています。この夏の猛暑で、夕方もなかなか外遊びができない日が続きましたが、その分朝の内にプールや水遊びを毎日のようにしました。おかげで、プール開きの頃は「顔に水は付けられない！」と言っていた子どもが、シャワーの（ぬるい…）水を頭から掛けられるようになったり、タコプールの中で自分から体を浮かせてみたりと、回数を重ねたからの成長が見られました。今までちょっと苦手だったことに自分から向かう表情には、達成感とうれしさが浮かんでいます。

子どもたち一人一人が、自分で考えて行動する喜びをたくさん味わえるように、大人として、大好きな子どもたちの行動を見守りながら、自立していく心を支えていきたいですね。

—今月の指導のめあて—

- 〈3歳児〉
 - ・食事の約束を知り、自分なりにしてみようとする。
 - ・保育者や友達と過ごす中で、自分の思いを動きや言葉で表そうとする。
 - ・自分なりに体を伸び伸びと動かして遊ぶ楽しさを感じる。
- 〈4歳児〉
 - ・保育者や友達との再会を喜び一緒に過ごす中で、こども園や学級での生活の仕方を思い出す。
 - ・保育者や友達と一緒に伸び伸びと体を動かしたり、自分のしたいことを繰り返し楽しんだりする。
 - ・葉や木の実など、園庭の自然に触れ、季節の変化を感じたり、遊びに取り入れたりする。
- 〈5歳児〉
 - ・共通の目的に向かって、友達と一緒に取り組む中で、自分の力を発揮しようとする。
 - ・いろいろな遊びの中で、友達と競い合うことや、勝ったり負けたりすることを楽しむ。
 - ・秋の自然に興味や関心を持ち、よく見て調べたり、遊びに取り入れたりすることを楽しむ。